

# 八尾南遺跡現地説明会資料

昭和58年5月28日

八尾市教育委員会  
 (財)八尾市文化財調査研究会

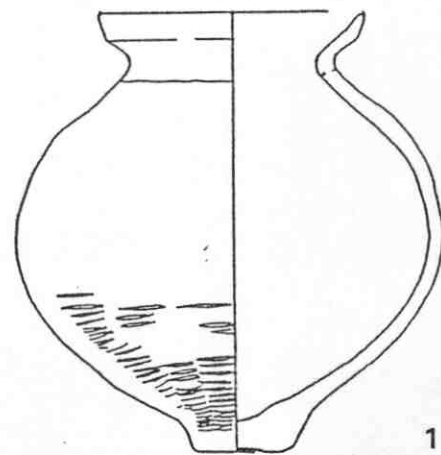
**概要** 本調査は八尾市若林町におけるコクヨ(株)倉庫建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査である。調査面積は約3,000㎡で、現G.L-0.5mより遺物包含層があり、以下室町時代、鎌倉時代、古墳時代、弥生時代の遺構が検出された。

**遺構** 中世に相当する遺構としては、調査区西側を南から北へ流れる河道がある。これは、現在の坪界に該当するため、古代末から中世に施行された条里制の遺構であると考えられる。

古墳時代の遺構としては、方形墳三基が検出された。そのうち一基は一辺がおよそ6.5mであり、現周溝の深さは約0.1m~0.3mである。墳丘は中世の削平を受けているため残存していない。埴輪・葺石は存在しない。周溝内には須恵器を供献している。

弥生時代の遺構としては、方形周溝墓十数基が検出された。一辺5mから10m前後までのもので、現周溝の深さは約0.1m~0.5mである。墳丘は古墳時代同様中世の削平を受けているため残存していない。周溝内より供献土器が出土している。尚、陸橋部をもつものもある。

**遺物** 遺物の量はコンテナ箱



方形周溝墓周溝内出土遺物

100箱余りである。主な遺物は、弥生時代後期の壺・甕・鉢・高杯等である。このほか古墳の周溝より須恵器の杯・壺・甕等が出土している。さらに、中世河道からは瓦器碗・土師質皿等が出土している。

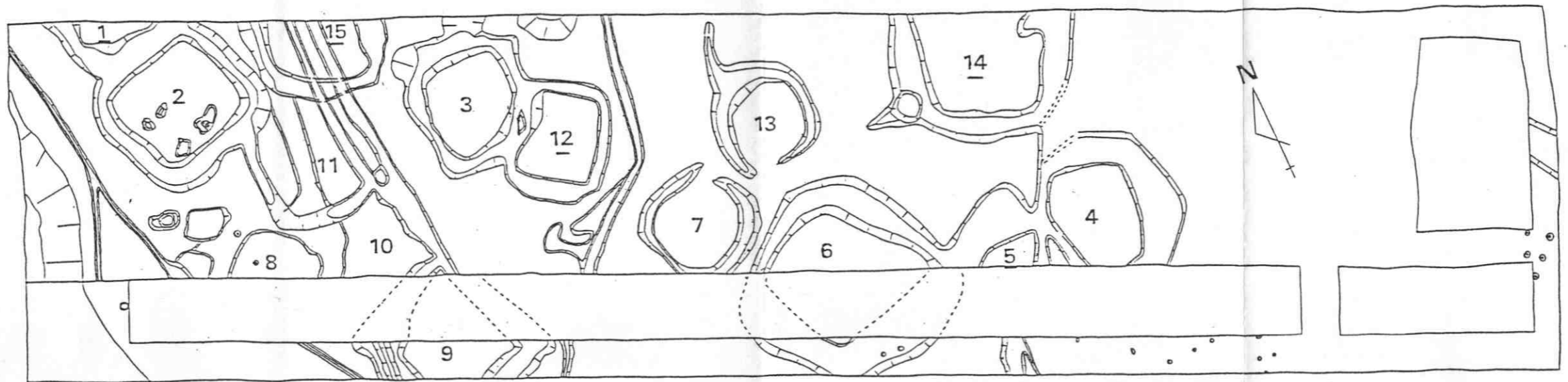
**まとめ** 今回の調査区からは、その全域に弥生時代後期の方形周溝墓が検出された。方形周溝墓は当遺跡の西方にある長原遺跡等でも発見されているが、当遺跡では密集して存在していることから、当時期の墓域であろうと思われる。長原遺跡で発見された方形周溝墓も、当遺跡のそれと同じ時期のものであり関連性が考えられる。さらに、地下鉄建設に伴う発掘調査で発見された八尾南二号墳が、当調査区のそれにつづくものでありと思われる。さらに、八尾南二号墳の次に八尾南一号墳、当遺跡の方形墳、そして近隣の住友マンションの調査で発見された方墳というように(表1参照)、2、3世紀から6世紀にわたる方形周溝墓や方形墳が継続的に営なまれている。

当遺跡の周辺を見渡すと西に長原古墳群があり、南東には、現在は犬知川によって当遺跡と分断されているが、古市古墳群がある。これ

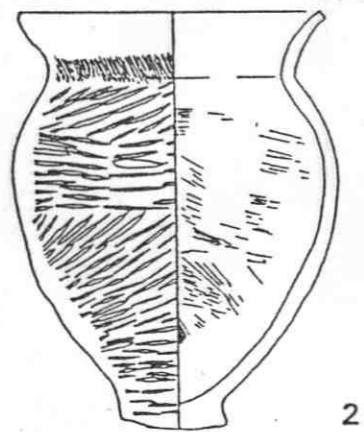
らの古墳群の出現する前段階の弥生時代後期の方形周溝墓が多数検出できたことと、古墳時代の方墳の存在が確認できたことは、周辺古墳群の実態を解明する重要な手掛りになるとと思われる。

時期	土器型式	古墳名称
2世紀 2 3世紀	V様式	YSK(当調査地)方形周溝墓
3世紀 2 4世紀	庄内式	八尾南二号墳
4世紀	布留式	八尾南一号墳
5世紀	須恵器I	YSK(当調査地)方形墳 長原古墳群
6世紀	須恵器II	八尾南三号墳

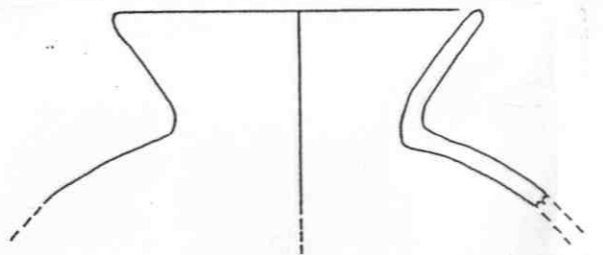
表 1



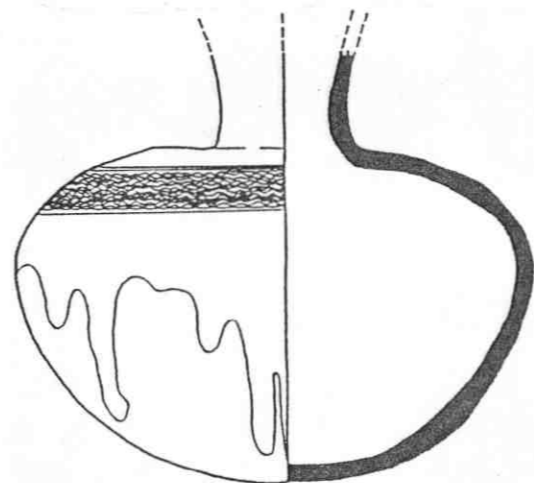
遺構平面図



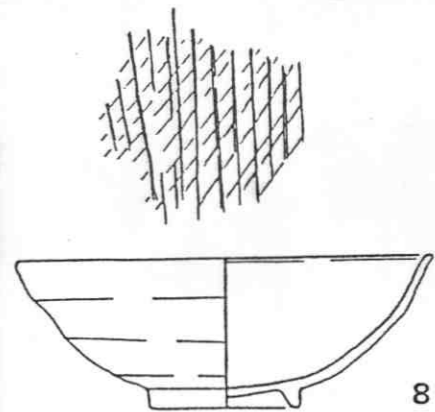
2



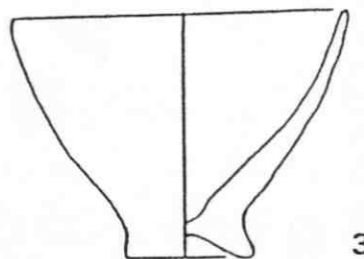
4



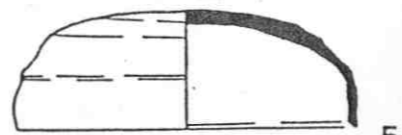
7



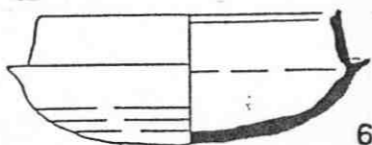
8



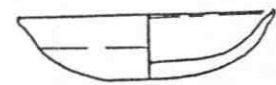
3



5



6



9

出土遺物

